

第1・2学年算数科学習指導案

2013年10月10日(木) 5校時

児童：1学年 3名(男子1名、女子2名)

2学年 2名(男子1名、女子1名)

指導者

(第1学年)

1. 単元名 たしざん

2. 指導観

第1学年では、具体的な事柄を基にしながら、1位数と一位数との加法の計算の仕方を考え、それらの計算が確実にできるようにしていく。

1位数どうしの加法については、和が10以内の加法を第4単元で扱っている。本単元では、和が10より大きい数になる加法について学習していく。算数ブロックなどの半具体物を使った操作によって、被加数か加数のどちらかから「10のまとまり」をつくり、「10といくつ」と考える計算の仕方を、筋道を立てて説明することができるようにしていく。

和が10より大きい数になる加法の場合の計算の仕方には、加数分解と被加数分解がある。いずれの場合にも、「10のまとまりをつくらせていく」ことに着目させていくことで「10といくつ」と考える繰り上がりのある加法の計算の仕方を理解させる。教科書では加数分解を中心に学習を進めていくが、加数と被加数の数の大きさによって柔軟に対応できるように、児童の実態に合わせて指導していく。

本学級の児童(男子1名、女子2名)は、算数の学習に対して興味・関心を持ち進んで取り組むことができる。与えられた課題に対してまじめに取り組み、楽しんで学習することができる。生活の中でも、未習の計算が使えている児童もいる。その一方で、たし算やひき算を手を使ってしている児童もいる。

本時では、前時に学習した「あといくつで10」という考えを使って、計算させていきたい。そのために、ブロックを用いて、実際に10のかたまりを作る操作をしたり、計算の仕方を唱えながら操作したりすることで、確実に計算できるようにしていく。また、間接時には学習でリーダーを使い、少しでも自分たちで学習が進められるようにさせていく。そのために、司会の仕方や聞き方などを示し、主体的に学習できることをめざしていく。

3. 単元の目標

- 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考え理解し、確実にできるようにするとともに、それを用いることができるようにする。

4. 単元の評価規準

関心・意欲・態度
・既習の加減計算や数の構成を基に、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考えようとしている。
数学的な考え方
・1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考え、操作や言葉などを用いて表現したり工夫したりしている。

(第2学年)

1. 単元名 たし算とひき算のひっ算

2. 指導観

単元前半における加数、被加数ともに2位数の加法計算では、繰り上がりが2回までを扱う。百の位への繰り上がりのある2位数どうしの加法計算も、これまでの2位数の加法計算と同様に、位ごとに計算することによって和が求められることや、百の位への繰り上がりは十の位への繰り上がりと同じ考え方で処理できることを理解させる。

単元後半における減法計算では、3位数から1、2位数をひき、繰り下がりが2回までのものを扱う。ここでも、これまでと同様に位ごとに計算することによって差が求められること、百の位からの繰り下がりとは十の位からの繰り下がりと同じ考え方で処理できることを理解させる。

そして単元終末では、簡単な場合について3位数などの加法及び減法の筆算を扱う。このことにより、2位数までの計算の理解を確実にするだけでなく、3位数までの数の理解もより確実なものにしていく。

本学級の児童(男子1名、女子1名)は、具体物や半具体物を使って操作する学習がすきである。しかし、取りかかりや進み具合に差があり、スムーズに学習が進まないことがよくある。二人ともこれまで学習してきた繰り上がりが1回の加法の筆算や、繰り下がりが1回の減法の筆算についてはよく理解できている。集中力が、どれだけ続くかが、課題である。

本時では、百の位から繰り下がりのある筆算を扱う。まず、文章題からわかっていることをテープ図に表し、式を導き出すようにさせたい。そして、既習事項を生かし、筆算の仕方を自分たちで作り出していくように、数カードや、タイルなどを操作させ、筆算の仕方と関連づけて計算方法を理解させたい。また、間接時における学習でリーダーを使い、少しでも自分たちで学習が進められるようにさせたい。二人しかいない2年生なので、お互いの話を聞き合い、主体的に学習できることをめざしたい。

3. 単元の目標

- 既習の筆算を基に、2位数の加法及びその逆の減法の筆算の仕方について理解し、確実にできるようにするとともに、それを用いる能力を伸ばす。
- 簡単な場合について、3位数などの加法及び減法の計算の仕方を考え理解する。

4. 単元の評価規準

関心・意欲・態度
・2、3位数の加減の筆算のよさに気づき、生活や学習に活用しようとしている。
数学的な考え方
・既習の筆算を基に、2位数の加法及びその逆の減法の筆算の仕方を考え表現しようとしている。

技能
・1位数どうしの繰り上がりの加法計算が確実にできる。
知識・理解
・10のまとまりに着目することで、繰り上がりのある加法計算がより確実にできることを理解している。

5. 指導計画（全12時間）

	時	学習内容	評価規準
9 + 4 の け い さ ん	1	9 + 4 の計算の仕方（加数分解）を考えること	考 9 + 4 の計算の仕方を考えることができる。
	2	被加数が9の場合の計算の仕方（加数分解）	知 9 + 4 の計算の仕方は、10のまとまりを作って計算すればよいことを理解している。
	3 本 時	被加数が8の場合の計算の仕方	知 被加数が8の場合でも、10のまとまりをつくれればよいことを理解している。
	4	被加数が8、9の場合の計算の練習	技 被加数が9、8の場合の計算が確実にできる。
	5	被加数が7の場合の計算の仕方（加数分解）と練習	技 加数分解による計算が確実にできる。
3 + 9 の け い さ ん	6	3 + 9 の計算の仕方（被加数分解）を考えること	考 被加数、加数の大小に関係なく、10のまとまりをつくることに着目して計算の仕方を考え、言葉やブロック操作などによって説明している。
	7	1位数 + 1位数で繰り上がりのある計算の練習、文章題の解決	知 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算は、10のまとまりをつくれればよいことを理解している。
か あ ど れ ん し ゅ う	8 ～ 1 2	計算カードを用いた加法計算の練習	技 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算が確実にできる。

技能
・2位数の加法及びその逆の減法の計算について、筆算の手順を基に確実に計算することができる。
知識・理解
・2位数の加法及びその逆の減法の計算が、1位数などの基本的な計算を基にできることを知り、それらの筆算の仕方について理解している。

5. 指導計画（全11時間）

	時	学習内容	評価規準
た し 算 の ひ っ 算	1	・2位すう + 2位数 = 3位数（百の位への繰り上がりあり）の筆算の仕方	知 2位数の加法の計算が1位数の計算を基にしてできていることを理解している。
	2	・2位数 + 2位数 = 3位数（十、百の位への繰り上がりあり）の筆算の仕方 ・2位数 + 1, 2位数 = 3位数（百の位への波及的繰り上がりあり）の筆算の仕方	技 2位数 + 2位数 = 3位数（十、百の位への繰り上がりあり）や、2位数 + 1, 2位数 = 3位数（百の位への波及的繰り上がりあり）の筆算ができる。
	3	・学習内容の習熟	技 学習内容を適応して、問題を解決することができる。
ひ き 算 の ひ っ 算	4	・3位数 - 2位数（百の位からの繰り下がりあり）の筆算の仕方	知 2位数の減法の計算が1位数の計算を基にしてできていることを理解している。
	5	・3位数 - 2位数（十、百の位からの繰り下がりあり）の筆算の仕方	技 3位数 - 2位数（十、百の位からの繰り下がりあり）の筆算ができる。
	6	・3位数 - 1, 2位数（十、百の位からの波及的繰り下がりあり）の筆算の仕方	考 既習を基に、3位数 - 1, 2位数（十、百の位からの波及的繰り下がりあり）の筆算の仕方を考え、説明している。
	7	・3位数 - 1, 2位数（十、百の位からの波及的繰り下がりあり）の筆算の練習 ・3位数 - 2位数の文章題	技 3位数 - 1, 2位数（十、百の位からの波及的繰り下がりあり）の筆算ができる。
	8	・3位数 + 2位数（百の位への繰り上がりなし）の筆算の仕方 ・3位数 - 2位数（百の位からの繰り下がりなし）の筆算の仕方	知 3位数 ± 1, 2位数の計算が、1位数などの基本的な計算を基にしてできていることを理解している。
大 き い 数 の ひ っ 算	9	・3位数 + 1, 2位数（百の位への繰り上がりなし）の筆算	知 3位数 ± 1, 2位数の計算が、1位数などの基本的な計算を基にしてできていることを理解してい

		の仕方 ・3位数－1，2位数（百の位からの繰り下がりなし）の筆算の仕方	る。
ま と め	1 0	・学習内容の習熟（力をつけるもんだい）	技学習内容を適応して、問題を解決することができる。
	1 1	・学習内容の理解（しあげのもんだい）	知基本的な学習内容を身につけている。

6. 本時の指導

(1) 目標

- ・被加数が8の場合でも、加数を分解して10のまとまりを作って計算すればよいことを知り、その計算方法を確実に理解する。

(本時 3/12)

(2) 評価規準

【知識・理解】 10のまとまりを作って計算する方法を理解している。

(3) 展開

6. 本時の指導

(1) 目標

- ・3位数－2位数（百の位からの繰り下がりあり）の筆算の仕方を理解する。(本時 4/11)

(2) 評価規準

【知識・理解】 筆算の仕方を、操作や言葉の説明を通して理解している。

(3) 展開

	支援（・）と評価(□)	学習活動		学習活動	支援（・）と評価(□)	
復 習	・前時の学習を思い出させる。	1. 復習プリントをする。 ・答え合わせをする。(リーダー) ・お話問題をノートに写し、式を考える。		1. 問題を読み、題意をとらえる。 ・場面をテープ図に表す。 2. 題意に基づいて立式する。 ・100より多い少ないか見積もる。 129－53 のひっさんのしかたを考えましょう。	・問われていること、わかっていることをおさえさせる。	課 題 把 握
課 題 把 握 ・ 自 力 解 決 ・ 練 り 合 い	8＋3のけいさんのしかたをかんがえましょう。 ・前時のブロック操作の確認をしておく。 ・ブロックを操作しながら説明させる。	・ブロックを操作して、考える。(一人で) ・言葉の説明を書いて考える。 ① 8はあと2で10。 ② 3を2と1にわけ。 ③ 8に2をたして10。 ④ 10と1で11。 3. 計算の仕方を発表し合う。 ・学習リーダーを中心に進める。		3. 筆算の仕方を考える。 (数カード、タイル、数字) 4. 筆算の仕方を発表し合う。	・言葉の説明用のヒントカードを提示する。	自 力 解 決 練 り 合 い
ま と め	知10のまとまりを作って計算する方法を理解している。 8＋3のけいさんも、10のまとまりをつくって、10とのこりをたしてけいさんする。 ・計算の手順を声に出して言うことで理解を確実にさせる。	4. 8＋3の計算の仕方をまとめる。 5. 練習問題に取り組む。		5. まとめをする。 129－53 のひっさんは、百の位から1繰り下げて計算する。 6. 練習問題に取り組む。	知筆算の仕方を、操作や言葉の説明を通して理解している。 ・計算の手順を声に出して言うことで理解を確実にさせる。	ま と め 練 習 問 題
予 告		6. 次時の予告をする。		7. 次時の予告をする。		予 告

(4) 準備物

- ・復習プリント
- ・ブロック

(4) 準備物

- ・タイル
- ・テープ図
- ・数カード
- ・ヒントカード